



自分の目で見るとの大切さ

宮崎日本大学中学校 2年 岩元咲和

朝は綺麗な朝日が差し込み、夜は綺麗なライトアップで町を活気づけるモンゴルの首都ウランバートル。モンゴルは日本とは違って夜がとても長く、賑やかだ。私はモンゴル人が親切で、こんなにもモンゴルが素晴らしいところなんてはじめは思っていなかった。

私はモンゴルに行く前、モンゴルについていろいろなことを調べた。ネット上ではモンゴルはスリが多いということや、あまり治安が良い国ではなく十分に教育も受けられていないと書いてあった。私はその情報がすべてだと思い込み、モンゴルに行くことを不安に思い、正直、日本とは違う部分を軽蔑していた。しかし、いまではそんな風に思っていた自分が恥ずかしい。モンゴル人は本当に良い人ばかりだった。ホームステイ先のモンゴル人もとても親切でモンゴル語が伝わらない私たちのために一生懸命身振り手振りで話してくれた。

「先入観にとらわれない。」私は実際にモンゴルに行き、モンゴル人と関わることで様々なことを学び、気づかされた。モンゴルは日本のことをとても良く思っていて、モンゴル人の学生のほとんどが、将来は日本で働きたいと言っていた。私はとてもうれしく思った。しかし、私たち日本人はモンゴルのことをよく知らないはずだ。私たちは今回モンゴルに行き、素晴らしい経験をした。モンゴルの素晴らしさを伝えることが私たちの使命だと思う。また、JICAの活動を知り、感激した。私も社会に貢献できる人間になりたいと強く思った。自分の目で見るとの大切さを知った今、これからの人生に活かして行きたいと思う。